

令和4年度(2022年度)事業報告

自 令和 4年(2022年)4月 1日
至 令和 5年(2023年)3月31日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

協会の目的達成のため、コンプライアンスの徹底、安全と安心、公平で平等な利用の確保を基本として、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりの推進、健全な地域社会の形成、生活文化・福祉の向上に努めました。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症も終息に向かいつつも、花見期間中の利用制限や予定していた事業の中止・縮小など、過年度から引き続き影響を被りました。また、ウクライナ情勢、原油高による物価の上昇、特に電気料金の上昇に伴い公園の管理経費が圧迫されました。

公益目的事業の1 都市緑化基金等事業では、ふるさと納税が引き続き好調なこともあり、札幌市都市緑化基金に1,685万円超の寄付をいただきました。一方、長引く低金利での運用の下、基金の果実だけではなく、収益事業からの繰入れにより記念樹の配付やツタ苗の補助などの民有地緑化事業を実施するとともに、園芸解説書の発行、ガーデニングボランティア養成講座、WEBフォトコンテスト等を開催しました。また、花や緑に関わる市民参加の促進や活動主体間のネットワーク化を目的に、さっぽろ花と緑のネットワーク事務局を設置・運営し、SNSやYouTubeチャンネルを活用した情報発信や、活動支援のための講師派遣や講習・講演会を開催しました。

令和4年度は、若い世代にも花と緑のまちづくりに興味を持ってもらうことを目的として、学生とボランティアとが協同で花や緑を使ったオブジェを制作する事業や、恵庭市をメイン会場に開催された第39回全国都市緑化北海道フェアの会期に合わせ、協賛会場の百合が原公園、スポット会場の大通公園において、ボランティアとともに花のおもてなし事業を開催し、フェアの気運の醸成を図りました。

公益目的事業の2 指定管理等公園施設事業では、指定管理計画及び札幌市との協議等に基づき、確実に事業を実施しました。公園施設の維持管理面では、巡視・巡回、点検・修繕、衛生や美観保持のための清掃など、安全と快適性の確保に努めました。また、特定外来生物などへの対応、生物多様性や在来種を重視した植物管理、美しい芝生の維持や季節感のある花壇、健全な樹林づくりなど、良好な景観形成と潤いのあるオープンスペースの創出に努めました。管理運営面では、コロナ禍での適正な情報提供、安全と快適性確保のための利用指導や調整、各公園施設の特性を活かしたイベントや利用プログラムを展開しました。市民参加・協働等においては、登録ボランティアによる様々な活動、地域や他団体と多様な連携協力などを行い、事業のあらゆる面で満足度の高い運営に留意しました。

その他の事業の1 国営公園等受託事業の国営滝野すずらん丘陵公園では、6年ぶりにシーズンを通して臨時閉園することなく、コロナ禍において激減した利用者数も徐々に回復の傾向が見られる中、運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設等を適正に管理しました。

収益事業の1 公園施設等附帯収益事業では、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、引き続き季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供など、お客様サービスの向上に努めました。

法人運営全体としては、組織改編と職員採用を進め、有期雇用契約者の採用についても優秀な人材の確保に努め、公園施設の管理に必要な資格取得の推進や各種研修を実施しました。特に年度当初には安全衛生、作業機械類の取り扱いなどの研修や消防訓練などを積み重ねて総合的な危機対応力を高め、事故発生の未然防止に取り組むなど、人材育成とガバナンスの強化に意を用いました。

また、業務の効率化・経費の縮減を図るとともに、労働環境の整備、職員の働き方の改善に努めました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

令和 5 年 3 月 31 日現在

| 区 分 | | 昭和59年度～ 令和 3 年度 | 令和 4 年度 | 累 計 |
|-------------|-------|--------------------|------------|-------------|
| (財)都市緑化基金助成 | | 3,000,000 | 0 | 3,000,000 |
| 札幌市補助金 | | 497,892,294 | 15,662,000 | 513,554,294 |
| | 助成等 | 287,174,944 | 0 | 287,174,944 |
| | 一般募金 | 210,717,350 | 15,662,000 | 226,379,350 |
| 協会への寄付金 | | 30,381,088 | 1,189,589 | 31,570,677 |
| | 個 人 | 1,408,934 | 0 | 1,408,934 |
| | 募金箱 | 4,565,864 | 305,542 | 4,871,406 |
| | 企業・団体 | 14,126,290 | 884,047 | 15,010,337 |
| | 協会繰入 | 10,280,000 | 0 | 10,280,000 |
| 総 計 | | 531,273,382 | 16,851,589 | 548,124,971 |

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラック 318 本、オオベニウツギ 76 本、シラタマミズキ 116 本、ラベンダー 50 本、アナベル 28 本のほか、中道リース株式会社寄贈のエゾヤマザクラ 80 本の合計 668 本の苗木を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市内の家庭及び事業所等に合計 6 件 72 株(補助は半数)のナツツタの苗を配布した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) キラリ！さっぽろ公園 30 選 2022

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあい等がテーマの WEB フォトコンテストを実施し、グランプリ 1 点、準グランプリ 2 点、キラリ賞 27 点を選出し、ホームページ上で公開した。

応募総数 174 人 853 点

(2) ガーデンフェスタフォトコンテスト

恵庭市をメイン会場に開催された「第 39 回全国都市緑化北海道フェア(ガーデンフェスタ北海道 2022)」の会期に合わせ、協賛会場・スポット会場の[百合が原公園、大通公園]で撮影したガーデンフェスならではの風景などの写真を募集し、全応募作品をホームページ上で公開した。

(3) ガーデンフェスタ北海道 2022 開催記念 第 56 回緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象に緑をテーマとした絵画コンクールを実施し、入賞作品 47 点、最優秀学校賞 2 校を選考した。

また、令和 4 年度は、ガーデンフェスタ北海道 2022 の記念事業として冠称を付して実施し、ガーデンフェスタ賞を創設した。

・参加学校数: 70 校 応募総数: 384 点

・表彰式: 令和 4 年 11 月 19 日 さっぽろテレビ塔ホール

・入賞作品展: 令和 4 年 11 月 18 日～11 月 22 日 札幌地下街オーロラコーナー

(4) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術を解説した冊子を作成、配布した。

タイトル: すくすくみどり No.31 「鉢で育てるライラック」

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識、技術を講義と実習で学ぶ連続講座を開講した。

期間: 令和 4 年 4 月 23 日～11 月 26 日

内容: 講義と実習を組み合わせた全 17 回のカリキュラム 受講者: 12 人

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。

貸出数: 4 団体 100 基(花苗 500 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

(1) さっぽろガーデンシティ活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑を切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を行った。

※助成財源: 一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

(2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持つ人の相互交流や活動支援のため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を設置、運営し、花と緑のまちづくり活動に役立つ講習の開催や情報の発信、支援情報の提供、イベントの企画運営を行った。

① 登録数・・・団体 33 団体、個人 303 人（令和 5 年 3 月 31 日現在）

② 情報発信・広報

会報誌の発行（4回）、専用ホームページの運営・更新、パネル展、ソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用や、YouTube チャンネルを活用した登録団体の紹介動画を製作し配信した。

③ まちづくり体験実習

公共地において、植栽、メンテナンス等を通じたまちづくりへの参加体験実習を行った。

・市役所本庁舎前コンテナガーデンづくり 令和 4 年 5 月～10 月 8 回実施、延べ 89 人参加

・永山記念公園花壇づくり 令和 4 年 6 月～10 月 9 回実施、延べ 74 人参加

④ 講習会等

登録者・登録団体を対象に知識や技術の向上、花と緑のまちづくりを担う人材の育成を目的とした講習会や、花と緑のまちづくりに対する興味・関心を抱くための機会の創出を目的に体験会を実施した。

| 内容 | 参加人数 | 備考 |
|--|--------|---------------------------|
| 講習会 サポーター養成講座 「おもてなしコンテナガーデンづくり」(全4回) | 延べ108人 | |
| 市民協働講習会「街なか花いっぱいプロジェクト」(全2回) | 延べ22人 | |
| 講習会 宿根草の管理を学ぶ | 18人 | |
| 講習会 園芸道具のメンテナンス | 18人 | |
| 体験会 親子体験プログラム おうちファームにチャレンジ(全3回) | 22組 | キット発送→動画視聴→ 製作→ZOOM講習会 |
| 体験会 ナチュラルグリーンのスワッグづくり | 39人 | |
| 体験会 押し花のフローティングフレームづくり | 20人 | キット発送→動画視聴→製作 |
| 体験会 押し花のフローティングフレームづくり | 29人 | 会場 |
| 種苗交換会 | 38人 | |

⑤ 研修見学会

登録者・登録団体を対象に知識や意欲の向上等を目的に、ガーデンフェスタ北海道 2022 メイン会場の花の拠点「はなふる」、協賛会場のイコロの森、えこりん村を各ガーデンの専門家の案内でめぐるバスツアーを実施した。令和 4 年 7 月 15 日実施 21 人参加

⑥ 講演会 ガーデンフェスタ北海道 2022 開催記念「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2022」

市民や登録者・登録団体を対象に花や緑のまちづくり活動が一層活発になることを目的に、イコロの森ヘッドガーデナー高林初氏による「庭師が出会った感動の風景」～宿根草の魅力と活かし方～と題した講演会を実施した。また、ガーデンフェスタ北海道 2022 の記念事業として冠称を付して実施した。後日、講演会の様子を YouTube チャンネルで動画公開したほか、上映会を実施した。

講演会:令和 4 年 7 月 8 日 札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ 87 人参加

動画総視聴数:328 回(3 月末時点) 上映会:2 回 43 人

⑦ 学生協同「花や緑を使ったオブジェ制作・展示」及び「春のクラフト体験」

花と緑のネットワーク推進支援事業の広報の一環として、若い世代にも花と緑のまちづくりに興味を持ってもらうことを目的として、学生と登録者が「思わず撮りたくなる花や緑を使ったオブジェ」のアイデアを出し、実際に制作する事業を行った。学生は札幌国際大学心理学科の学生が参加した。

また、オブジェ完成後、応援スタッフ(登録者)の協力を得てクラフト体験を行った。

オブジェグループワーク:令和 4 年 11 月 25 日 札幌国際大学 学生 20 人、登録者 6 人参加

オブジェ制作:令和 5 年 3 月 3 日 札幌市民交流プラザ モール 学生 6 人、登録者 10 人参加

春のクラフト体験「ドライフラワーのガーランドづくり」:36 人参加

オブジェの展示:3 月 3 日 札幌市民交流プラザ モール

3 月 7 日～3 月 12 日 百合が原公園温室

3 月 13 日～3 月 15 日 札幌国際大学

⑧ 技術指導講師派遣

活動の技術的支援のため、登録ボランティア団体・登録者が主催する講習会に講師を派遣した。

実施回数:5 回 延べ参加人数:65 人

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 魚類等水生生物の調査・研究

札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ・ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2022」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して、施設の状況を発信した。

新型コロナウイルス感染の対応については、各公園・施設で随時、札幌市と連携を取り、利用者の感染予防対策を行い利用者が公園の状況を適切に理解し利用するよう努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS(環境マネジメントシステム)に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や生物多様性保全など、環境に配慮した取組に努めた。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除を実施した。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園が参加協力した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会、子ども向けのかげっこ教室など、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外あそびに関する取組として、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、厚別公園では(一社)A-Bank北海道との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブを運営した。このほか、農試公園ではサッカースクール、かけっこスクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働で季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理を行い、歴史的・文化的財産の共有、まちなかのみどりのオアシスとして質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策にて中止していた大規模イベントは規模を縮小しての開催となったが、待ち望んでいたかのように利用者が訪れたため、昨年度よりも来園者数は一気に増加し、夏まつりや雪まつり時には各所で人が滞留していた。

予定していた自主事業イベントにおいては感染状況を確認しながら、可能なものを開催した。市民や観光利用者のために、園内の開花情報等の写真をホームページで適時、発信した。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター&オフィシャルショップ」を運営した。また、「カフェテラス」及び「とうきびワゴン」の運営は、通常の大通公園西3丁目、西4丁目で行い、大規模イベント時には西7丁目とうきびワゴン臨時売店を設け、利益の向上と利用者の利便性を図ったことで、前年度より利用者は増加し、売り上げも約5倍に伸びた。

ホームページでは、タイムリーな開花情報のほか、ボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園管理を広め、参加意欲の向上につなげることができた。

(2) 体験型利用の促進

新型コロナウイルス感染症対策のため、大通公園でのラーメンショーは中止したが、他の大規模イベントは開催となった。また、自主事業として計画していた以下の参加・体験型イベントは、半数を中止とした。

■利用促進による自主事業イベントの実施一覧

| 大通公園 | | | 創成川公園 | | |
|---------------|------|------------|--------------|---------|----------|
| 名 称 | 日 数 | 参加者数 | 名 称 | 日 数 | 参加者数 |
| バラフェスタ | 2 日 | 延べ 545 人 | ライラックの写真募集 | 募集 26 日 | 延べ 126 人 |
| バラカフェ（最大 3 台） | 37 日 | 延べ 2,270 人 | ライラックの投稿写真展示 | 展示 19 日 | 延べ 840 人 |
| 西 9 丁目移動販売車 | 3 日 | 延べ 90 人 | 創成川ハロウィン | 1 日 | 約 150 人 |
| 大通公園であそぶか〜い | 1 日 | 約 600 人 | 創成川公園まちの灯り | 1 日 | 約 150 人 |
| バラの写真展 | 13 日 | 延べ 600 人 | | | |

※例年開催のどんぐりクラフト・竹馬貸出・くじらの森遊びの会は「大通公園であそぶか〜い」として統合

■感染症拡大防止による自主事業イベント中止一覧

| 大通公園 | 創成川公園 |
|----------------------------|----------------------------|
| プレミアムウィークエンド | まるわかりガイドツアー |
| 夏休みこどもボランティア体験会 バラ花壇管理体験 | こどもボランティア体験 彫刻清掃体験 |
| 中央区の公園共同企画イベント 夏休み公園謎ときラリー | 創成川たなばた会 |
| 雪と遊ぼう！ ウィンタースポーツフェスティバル | 中央区の公園共同企画イベント 夏休み公園謎ときラリー |
| 冬を滑ろう！ ソリ山 | |
| 冬の大通公園と雪まつりガイド | |

2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対しては、用具の提供や技術指導などの活動支援を行い、市民協働の推進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出しなど、適切なサポートを行った。両公園の登録ボランティアについては、各自での体調管理やマスク着用、アルコール消毒等の新型コロナウイルス感染症対策をとってもらい、市内での感染状況を確認しながら、ソーシャルディスタンスをとって活動を行った。

ガイドボランティアに関しては、市民や観光客と対面での対応となり、感染対策が取りにくいいため、令和4年度のガイド活動は期間縮小とし、通常ガイドの他に研修やガイド時に必要となる園内樹名板の取り付け、小学校の社会学習時のガイドボランティア活動を行った。

ボランティア活動では自発的な活動を重視するとともに、専門家の技術指導によるスキルアップ、必要用品類の支給等で、活動の活性化やモチベーションの向上を図った。冬期間においての室内活動は、感染症防止対策をとった上でを行い、屋外イベントでは運営補助に携わってもらった。

■ボランティア活動一覧（4月～11月）

| 公園名 | 団体名 | 活動日数 | 参加者数 | 活動内容 |
|-------|--------------|------|----------|------------------|
| 大通公園 | 大通公園花壇ボランティア | 3 日 | 延べ 45 人 | 春・夏花壇の花苗植え込み |
| | 花壇維持ボランティア | 29 日 | 延べ 196 人 | 大通公園の花壇維持管理活動 |
| | NPO 法人シーズネット | 23 日 | 延べ 192 人 | 大通公園の花壇維持管理活動 |
| | バラ花壇ボランティア | 46 日 | 延べ 869 人 | 西 12 丁目バラ花壇の維持管理 |
| | ガイドボランティア | 40 日 | 延べ 116 人 | ガイド・研修・樹名板取付作業 |
| 創成川公園 | 植物ボランティア | 28 日 | 延べ 223 人 | ライラック等の植物維持管理 |
| | お助け隊 | 26 日 | 延べ 166 人 | 清掃、除草などの公園維持管理 |
| | 花くらぶ | 21 日 | 延べ 130 人 | コンテナ花壇の維持管理 |

■ボランティア活動一覧（1月～2月）

| 公園名 | 団体名 | 活動日数 | 参加者数 | 活動内容 |
|-------|------------|------|---------|-----------------|
| 大通公園 | バラ花壇ボランティア | 2 日 | 延べ 11 人 | バラのポプリエッグ作製 |
| 創成川公園 | お助け隊 | 1 日 | 5 人 | イベント「まちの灯り」運営補助 |

(2) 教育機関との協働

例年行っている近隣小学校との連携で、児童による花壇への花苗植え込みなどのボランティア体験については、今年度も新型コロナウイルス感染症対策として中止になった。

■感染症拡大防止による教育機関との協働イベントの中止一覧

| 大通公園 | 創成川公園 |
|------------------|-------|
| 札幌市立資生館小学校花苗植え込み | － |
| 札幌市立中央小学校花苗植え込み | |

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

過年度から続き令和4年度も新型コロナウイルスの影響が事業実施の際の課題となった。地域団体や企業、関連団体と連携して開催するイベントも多くあり、各所との調整を行いながら規模縮小での開催や中止といった判断を行った。

(1) 市民にわかりやすい情報提供

当公園・緑地の公式ウェブサイトを活用し、年間を通した景観の魅力やタイムリーな公園情報を発信することで公園をPRし、新規の公園利用者誘致、リピーターの再訪を促した。

公園で作成している園内樹木マップを継続配布するとともに、札幌ライオンズクラブの協力で樹名板を設置するなど、園内散策のアイテムによるサービス向上と利用促進を図った。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力向上

都心部における貴重な水景である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけるよう、サクラやアジサイといった季節を彩る花木類の管理に特に配慮した。また、「野鳥観察会」や「みどころ探訪ツアー」といった自然イベントを開催し、生き物と触れあうことができる企画を提供することで公園の魅力アップにつなげた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」「札幌まつり」「ゆきあかり in 中島公園」など長期にわたり中島公園を会場として親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止や規模縮小での開催といった運びとなった。これらの情報はメーリングリストを通して公園内及び周辺の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関などや催事の主催、関係団体と情報共有し、相互協力・支援体制を整えるとともに、公園内の治安・安全性の向上に努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上に努めた。

■ 自主事業による開催イベント一覧

| 中島公園 | | 豊平川緑地(上流地区) | |
|-----------------------------|--------|-----------------------|--------|
| イベント名 | 参加者数 | イベント名 | 参加者数 |
| ①なかじま桜まつり | 中止 | ①パークゴルフ大会 | 81名 |
| ②中島 Kids ガーデン(5月下旬～10月上旬) | 中止 | ②ラストコール杯 | 115名 |
| ③鴨ノス茶会・野点 | 中止 | ③川見 マルシェ及び豊平川プロジェクト川見 | 1,000名 |
| ④中央区の公園共同企画イベント 夏休み公園謎ときラリー | 中止 | | |
| ⑤ノルディックウォーク体験会 | 中止 | | |
| ⑥みどころ探訪ツアー | 8名 | | |
| ⑦くつろぎビレッジ | 5,000名 | | |
| ⑧青空画廊 | 中止 | | |
| ⑨野鳥観察会 | 10名 | | |
| ⑩スノーシューレンタル | 157名 | | |
| ⑪ゆきあかり in 中島公園 | 1,000名 | | |

※中止のイベントについては、感染症拡大防止または協力団体との検討のうえ開催に至らなかったもの。

2 市民参加・協働等

地域との連携を図るためコミュニティ推進協議会を継続し、メーリングリストによる「さっぽろ園芸市」や「札幌まつり」「ゆきあかり」等のイベント開催の情報共有を図った。

7月はコミュニティ推進協議会メンバーである中島児童会館が開催した地域の市民や子ども主体のイベント「かもくまミニ祭り」に協力。冬季最大のイベントである「ゆきあかり in 中島公園」は規模縮小での開催とした。豊平川緑地パークゴルフ場（南7条コース・南大橋コース）では、運営を中央区パークゴルフ協会に委託し、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援・協働

園内花壇や花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、園内花壇の土壌改良や雑草の繁茂が目立つ箇所を再生・植栽し、公園花壇の質の向上を図った。

(2) 近隣教育機関との連携

公園近隣の中島中学校における総合学習への協力として、公園職員が学校に出向し緑や公園について興味や愛着心の向上を図った。

(3) 市民活動・地域連携による相互の充実

コミュニティ推進協議会、教育関連及びボランティア団体等への事務連絡は過年度に続き電子メールにて行った。「ゆきあかり」事業も開催についても会合を設けず、電子メールでの意見集約・報告とした。

このほかに中島公園内にある豊平館、北海道立文学館の運営協議会に公園職員が委員として参加し、意見交換を行った。

■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

| 団体名 | 日数 | 参加者数 | 活動内容 |
|---------------|------|----------|----------------------|
| フローレスの会 | 42 日 | 延べ 323 名 | 園内花壇・バラ管理等 |
| 中島中学校講演会 | 1 日 | 80 名 | 中島公園の歴史について講演 |
| 中島中学校職場体験 | 中止 | — | 花壇管理、清掃補助等 |
| かもくま祭りミニ | 1 日 | 200 名 | 児童会館主催イベントへの協力 |
| 鴨々川清掃活動 | 中止 | — | 公園内を流れる河川の清掃 |
| 鴨々川いきもの観察会 | 2 日 | 40 名 | 札幌市と協同で実施する生物調査 |
| 中島公園彫刻清掃体験 | 中止 | — | 園内彫刻の解説と清掃活動 |
| 日本庭園・野点 | 中止 | — | 地域団体との共催イベント |
| 青空画廊 | 中止 | — | 中島中学校生徒の写生画展示 |
| 中島中学校総合学習 | 中止 | — | 「ゆきあかり」補助 |
| ゆきあかり in 中島公園 | 2 日 | 1,000 名 | 中島公園地域連携による冬の風物詩イベント |

※中止の事業については各団体との検討のうえ開催に至らなかったもの。

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場及び南22条野球場は、新型コロナウイルスの影響による休業はなかったが目標準額には達しなかった。コロナ禍前令和元年度と比較し、パークゴルフ場は86%、野球場は75%程度の実績であった。

利用料金収入合計 7,810,860 円（パークゴルフ場南7条コース・南大橋コース及び南22条野球場）

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ナチュラルリースづくり」「あけびのハンドルバスケットづくり」を開催した。

近隣地域の子どもの主な対象とした「円山公園子ども夏まつり 2022」を開催し、冬季には「スノーマウンテン造成及びチューブそり無料貸出」「冬の円山公園にスノーキャンドルのあかりを灯そう！2022」「まるやまスノーラフティングチューブ」を開催しており、公園の利用促進及び活性化を図った。

スポーツイベントとして、「かけっこ教室」「青空ヨガ教室」を複数回開催し、大変好評を得ており、今後も継続して開催していきたい。

園内ではリスや野鳥などの野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発を目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成 27 年に発足し、市民参加による勉強会として「まるやま野生動物カフェ」を継続的に開催してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染対策が十分に取れないことから、令和2年度以降、開催を見合わせている。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、当初計画していた自主事業のうち、「円山公園マルシェ」「夏休み公園謎解きラリー」「円山公園探訪ツアー」「もくもく工房」「苔玉づくり」「まるやま野生動物カフェ」を中止とした。

■自主事業による開催イベント一覧

| イベント名 | 参加者数 | イベント名 | 参加者数 |
|---------------------------|-----------|-----------------------------------|----------|
| ①ちょこっとプレーパークin 円山公園(39 回) | 延べ2,516 人 | ⑥ノルディックウォーキング講習会 | 延べ 6 人 |
| ②かけっこ教室(2 回) | 延べ28 人 | ⑦ナチュラルリースづくり(4 回) | 延べ 41 人 |
| ③青空ヨガ教室(10 回) | 延べ77 人 | ⑧スノーマウンテン造成 及びチューブそり無料貸出 | - |
| ④あけびのハンドルバスケットづくり | 延べ9 人 | ⑨冬の円山公園のスノーキャンドル のあかりを灯そう！2022 | - |
| ⑤円山公園こども夏まつり 2022 | 延べ860 人 | ⑩まるやまスノーラフティングチューブ(7 回) | 延べ 551 人 |

2 市民参加・協働等

在来植物の保護と外来植物の対策として、北海道自然保護協会と連携し、外来種除去活動を継続して実施しており、ゴボウ 134.1kg、イワミツバ 218.8kg、オオハンゴンソウ 30.7kg、アメリカオニアザミ 4.4kg を除去した。

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、「ちょこっとプレーパークin 円山公園」を開催し、子どもが自由に、のびのびと外遊びできる場を提供した。

花壇管理ボランティアの方々とともに、神宮下園地の花壇の維持管理として、チューリップ球根の掘り取り・植え込み、コスモスの播種・抜き取り、花苗の植え込み・掘り取り、除草作業等を定期的に行なった。

■ボランティア団体による活動一覧

| 団体名 | 活動日数 | 活動内容 |
|------------------|------|--------------------------------|
| 一般社団法人北海道自然保護協会 | 12 日 | 外来植物(ゴボウ、イワミツバ、オオハンゴンソウ等)の除去活動 |
| さっぽろ冒険遊びの会 | 39 日 | プレーパーク事業の運営 |
| 花壇管理ボランティア(個人登録) | 13 日 | 神宮下園地の花壇の維持管理 |

3 利用料金収入

有料施設は花見期間終了後、順次、開放準備を進め、5月中旬より開放した。適時、必要な維持管理作業を実施し、良好な施設環境の維持に努めることで、有料施設の利用促進を図った。コロナ渦前の利用実績に近い水準まで回復してきている。

利用料金収入合計 633,630 円(坂下野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

今年度は、新型コロナウイルスに関わる営業中止等はなく、公園内において、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

緑のセンターでの植物展示会、園芸講習会に中止はなく、リートレインの乗車定員の制限等も解除し、通常通りに営業した。なお、緑のセンターでの植物展示会・講習会は、3月までに38回開催した。事業の開催は、広報専任担当者を配置して的確な情報発信を行い集客につなげた。この他、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリングを年4回開催したほか、ガイドボランティアが活動した。プレーパークは、3回開催した。

6月25日から7月24日に開催された第39回全国都市緑化北海道フェアの協賛会場として、緑のカーテンやグリーンドーム、フォトフレームなどを設置した。

■自主事業による展示会・講習会・イベント観覧・参加者数(4月～3月)

- | | |
|--------------|-------------|
| (1)展示会・講習会 | 延べ 93,810 人 |
| (2)オリエンテーリング | 延べ 710 人 |
| (3)プレーパーク | 延べ 31 人 |
| (4)ガイドボランティア | 延べ 224 人 |
| (5)ワークショップ | 延べ 428 人 |

2 市民参加・協働等

(1)ボランティア活動の支援(4月～3月)

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4つのボランティアグループ、計42名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・温室管理ボランティア「ミモザ」 11 人 | ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 15 人 |
| ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 7 人 | ・公園ガイドボランティア「ガイド」 9 人 |
| 合計 178 日 延べ 980 人 | |

(2)体験学習、実習等の受け入れ

例年、札幌市内の小中学校や近郊の高校、専門学校などから、環境学習や職業体験、インターンシップの受け入れを行っており、以下2校の受け入れを行った。

- ・市立札幌みなみの杜高等支援学校 教育実習 1 人 11 月 7 日～11 月 18 日(10 日間)
- ・札幌工科専門学校造園緑地科 インターンシップ 1 人 8 月 22 日～8 月 26 日(5 日間)

(3)生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業であるオンライン生き物クイズラリー2022に参加した。

(4)子ども食堂の開催

レストランにて、子ども食堂を5月23日から10月11日の第2・第4月曜日に開催し、約356人が参加した。

(5)展示

様々な取り組みの発表の場として、近隣の大学及び専門学校等と協働展示を行った。

- ・酪農学園大学と協働で、ユリ展を開催した。
- ・北海道芸術デザイン専門学校と協働で、百合が原公園のダリアを主体としたアレンジメント展示を行った。
- ・札幌国際大学生とさっぽろタウンガーデナーが協同製作した「花や緑を使ったオブジェ」を展示した。

3 緑の相談(4月～11月)

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週2回(木曜、日曜)、緑の相談業務を行い、相談件数は1,002件だった。

4 利用料金収入(4月～3月)

世界の庭園は、8月17日から日本庭園の改修工事により、観覧ができないことが影響して減収となった。百合が原緑のセンター及びリリートレインは、催事の中止はなく、開花情報やイベントの広報発信を積極的に行った結果、利用者は増加した。

利用料金収入合計 15,913,610 円(緑のセンター温室、世界の庭園、リリートレイン)

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

これまで進めてきたイサム・ノグチ作品としてのクオリティを確保し、魅力ある公園づくりと情報発信力を活かし、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用に向けて事業を展開した(入園者数 980,900 人)。

(1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

ア 快適で安全な公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

テニス大会やマラソン大会など持ち込みのイベントについては、ほぼすべてがコロナ禍以前と同様に実施された。また、毎年実施されている「モエレ沼芸術花火 2022」(主催:モエレ沼芸術花火実行委員会)は、感染症対策のため来場者数を 17,000 人に限定して開催した。

施設等の管理では、安全管理、事故防止に加え、感染症リスク軽減の対策を盛り込みつつ、各種イベントへの柔軟な対応・協力をを行い、魅力ある公園づくりに努めた。

イ 国内外への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、SNS などによる効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラや各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌や海外メディアによる動画撮影などさまざまな取材に対応して、国内のみならず海外からの誘客にも努めたほか、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

ウ 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、ガラスのピラミッドのユニークな空間を活用して、アマチュアやプロによるコンサートを開催した。これらの事業には多くの来場者が集い、利用促進及び公園の価値向上につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

| イベント名 | 観覧者数 | イベント名 | 観覧者数 |
|--------------------------|----------|-------------------------|----------|
| ① モエレの1年展 | 5,366 人 | ③モエレのホワイトクリスマス 2022 | 218 人 |
| ② 所蔵品展 「イサム・ノグチ あかり展」 | 15,636 人 | ④ 「Big Buddha Project」展 | 16,039 人 |

(2) 他団体と連携した誘客活動

北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的なPR活動などの取組に努めた。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、ボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会や NPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組とその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めた。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

| 団体名 | 参加者数 | 活動内容 |
|--------------------|----------|-------------------------------------|
| モイレ HIDAMARI | 延べ 137 人 | サクラツアー、クラフト「いろいろスプーン」、親子で楽しむ押し葉アート等 |
| NPO モエレ沼公園の活用を考える会 | 延べ 80 人 | みんなで一緒にモエレ秋のコンサート |

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカンリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、スノーシューやソリなど、ウインタースポーツ用品の貸出しを行った。

なお、例年2月に実施している「モエレ山爆走そり大会」(運営の中心は東区役所地域振興課)は3年ぶりに開催。実行委員会の一員として円滑な運営に協力し、モエレ山の雪面を活かした地域連携型イベントとして数多くの参加者と観覧者で賑わった(参加者80組)。

4 利用料金収入

スポーツ施設は大会利用が再開されたが、学生の大会は中止になることが多く、特にテニス利用については、利用が戻りきらない状況であった。

レンタサイクルは6月頃までは例年よりも低調な貸出件数であったが、7月以降、観光客が飛躍的に増加し、コロナ以前の水準に戻った。

ガラスのピラミッドの貸室では、感染対策のため大人数の会合を避ける流れから撮影の需要が飛躍的に伸びた。また、人数制限をかけつつ集客イベントも多数開催された。利用数が増加したこともあり、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 19,604,770 円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的である、「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を 2 本の柱に利用促進事業を計画し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組むこととした。

(1)公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

ア ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第 64 回さっぽろライラックまつり」の川下会場はコロナ禍になってから初めて対面での催しを用意しての開催となった。ライラックガイドツアーの開催や、ライラック苗木の販売や展示を実施するほか、クイズラリーを実施した。

また、ライラックの森内に宿根草や一年草でハンギングバスケットを用いた写真スポットなどを設置した。その他 SNS を利用して川下公園のライラックについて写真を投稿・発信するイベントを企画し、感染対策を講じ実施したところ利用者からは好評であった。特にライラックの苗木の販売は過去最高の売り上げがあり、市民の注目度の高さが伺えた。

維持管理では雪解け後に、大雪や虫食いによる枯死の被害も多く、秋に 30 株以上補植し、景観を整えている。

イ 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では、受講者の年齢層が高い水中健康教室については令和 4 年度も引き続き中止としたが、幼児～小学生を対象としたフリースタイルダンス教室は、感染拡大防止対策の徹底を図った上で開催した。

また、川下公園パークゴルフ場では春・秋の 2 回大会を開催し、参加者の交流を深めた。

■自主事業等による開催イベント一覧

| イベント名 | 参加者数 | イベント名 | 参加者数 |
|----------------------------|---------|-------------------|-------|
| ①水中健康教室 | 中止 | ⑤白石区ふるさとまつり(共催) | 中止 |
| ②フリースタイルダンス教室 | 723 人 | ⑥愛犬といっしょの公園散歩講座 | 19 人 |
| ③さっぽろライラックまつり in 川下公園 | 6,717 人 | ⑨ネイチャークラフト講座 | 36 人 |
| ④パークゴルフ大会(川下公園 PG 場、春・秋開催) | 40 人 | ⑩川下公園ウインターフェスティバル | 500 人 |

(2)コロナ禍による影響と対策

ア コロナ禍におけるリラックスプラザの運営

新型コロナウイルス感染リスクの高い屋内施設であるリラックスプラザでは定期的な換気・消毒、人数制限、イベント参加者の検温、パーテーションの設置、利用者への注意喚起など、感染防止対策の徹底を図りながら施設を閉鎖することなく通常どおり施設運営を行った。

イ 規制緩和による動向

来園者で賑わうバーベキュー広場は、今年度より通常通りの解放となったが、新型コロナウイルスに感染するリスクを避けるためか利用者は少なかった。

しかし、規制緩和による利用者数は、リラックスプラザ内施設をはじめ、カナル・壁泉、各有料運動施設においても増加傾向が顕著であった。今後も増加傾向が予想されるが、国の方針に準じ感染対策を講じる予定である。

2 市民参加・協働等

(1)市民参加のボランティア活動

ライラックの花がら摘み、挿し木や除草を「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

(2) 市民協働の活動

近隣中学校の校外学習の場として「白石区でっち奉公」を実施し、6校45名の中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、近隣の川北小学校や平和通小学校からは総合学習協力の依頼があり、公園管理についての質問に対し、文書で答える形で協力し、地域子どもたちへの環境教育に努めた。

近隣町内会や教育機関等の関係者の参加により川下公園利活用協議会開催し、公園管理や活用方法について話し合い、公園と周辺環境の整備に関して、今後も地域として継続的に相互協力することを改めて確認した。

このほか、北東白石まちづくりセンターによる凧揚げ会への協力、北東白石地区青少年育成会による「雪あそびフェスティバル」において、テントの貸し出しや雪山づくり、雪上ラフティングボートの実施など、近隣の子どもたちの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石こころーどにおける環境美化活動」に参加し、11月に白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

また、例年実施されている白石区ふるさとまつりについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3年連続の中止となった。

3 ライラックの継続的な品種管理

前年度に引き続き、育苗用ポリポットで保存していたライラックが、ネズミによる食害を受けた。このライラックは園芸品種のライラックを保存するための苗であったり、ライラックまつりで無料配布する苗で、その数は600ポット以上と被害が深刻なものとなった。

夏期には市民ボランティアによる挿し木を例年以上に多く実施し、今年度食害を受けた分を回復すべく対策を講じた。

4 利用料金収入

利用料金収入については、コロナ禍の影響があった昨年度までより増収し、コロナ禍以前の令和元年度までに回復しつつある。

利用料金収入合計 13,615,760 円(対前年度比 141%)、(対令和元年度比 92.4%)

(川下公園浴室・プール、川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平公園緑のセンターは、利用者・スタッフの新型コロナウイルス感染防止対策に取り組みながら、令和4年度は計画通り全ての展示会、講習会を実施した。しかし、感染者数が高止まりとなっていた影響か、センター年間来館者は65,248人(R3:78,881人)となり、昨年度の来館者より約17%減となった。

(1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

札幌市で最も古い緑のセンター(昭和54年3月開所)として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、令和4年度も人気の植物や、古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフトの展示会、また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした園芸教室・講座、自然教室、クラフト講習会を開催した。なお、実施した展示会や講習会等の開催に際しては密にならないよう、定員を半数にし、換気等の感染防止対策を実施して対応した。

| イベント名 | 回数 | 参加者数 | R3 参加者数 |
|-------------------------------|-----|------------|------------|
| 展示会(パンジー・ヴィオラ展他) 延べ143日間 | 24回 | 延べ 33,896人 | 延べ 25,734人 |
| 園芸教室(洋ランの栽培、ロープワーク、鉢花・草花・球根類) | 17回 | 延べ 166人 | 延べ 167人 |
| 園芸講座(バラづくり、宿根草) | 6回 | 延べ 74人 | 延べ 7人 |
| クラフト講習会(あけびクラフト、レカン、ナチュラルリース) | 9回 | 延べ 97人 | 延べ 55人 |
| コショウラン植え替えサービス | 2回 | 延べ 40人 | 延べ 20人 |
| 観察会 | 1回 | 延べ 33人 | 延べ 14人 |

(2) 市民、他施設との共同イベント開催

今年度も新型コロナウイルス感染者数が高止まりであったため、近隣施設や団体等との共催イベントの開催は控えた。1月21日に3年ぶりに当公園登録ボランティアや近隣町内会と協働でスノーキャンドルイベントを開催し、スノーキャンドル、雪像を作製した。また、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として連携事業の「生き物クイズラリー(オンライン)」に参加した。

(3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行して、約13,000部を札幌市各区役所や近隣まちづくりセンター、公共施設、各公園に無料配布するとともに、公式ウェブサイトでも公開した。

北国の園芸情報の発信及び、豊平公園、百合が原公園、平岡樹芸センターの札幌市都市緑化植物園での、旬の開花情報や写真、イベント案内などを掲載し、好評を得ている。

(4) 第42回都市緑化植物園(緑の相談所)連絡会議への参加

令和4年度開催の都市緑化北海道フェアの開催に合わせて、恵庭市で開催された都市緑化植物園(緑の相談所)連絡会議に札幌市を含め全国13都市が参加し、管理事務所長が「札幌市緑化植物園の概要とボランティア活動」をテーマに取組・事例紹介と質疑応答を行った。

2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの充実化を目的として、登録ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を協働で行った。なお、活動に当たり、感染防止対策をとって活動している。

・豊平公園花とハーブの会 22日間 延べ217人

屋外花壇・植栽管理、センター内植物管理、花壇・野草園・芝生内除草、リース作製や飾りつけ、イベント作業

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、休館日を除く毎日、電話、対面での緑の相談業務を行った。ステイホームの方が多く、家庭での園芸活動が人気となり、利用者に大変喜ばれた。

・相談件数 電話、対面相談を合わせて 14,749 件(R3:13,798 件)

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,890,100 円(R3:1,028,400 円) ※テニスコート、講義室

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等(平岡公園)

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産としての平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

ア 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

新型コロナウイルス拡大防止のため、札幌市の指示により前年に引き続き「梅まつり」を中止としたが、令和4年度は規制を緩め梅林を開放した。あわせて梅林に梅ソフトクリーム・土産販売所を設置し、混雑緩和を図りながらサービスの提供もおこなった。また、ホームページにて、令和4年度のウメ開花状況の写真を掲載し梅林の魅力発信に努めた。

イ 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に置きながら、例年行っている市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携による環境教育の拠点としての役割を果たした、協力している近隣小学校や大学の環境教育授業などは依頼があったものは開催した。地域ボランティア及び連携大学と協働で行っているイベントもほぼ計画通りに開催した。新型コロナウイルス対策が困難なイベントは中止とした。

■自主事業による開催イベント一覧

| イベント名 | 回数 | 参加者数 | 備 考 |
|-----------------|-----|-------|----------------------|
| ① 公園ツアー | 4 回 | 125 人 | 梅林ツアー・ノルデックウォーキングは自粛 |
| ② ヘイケボタル観察会 | 2回 | 67 人 | |
| ③ ベースボール体験イベント | 0 回 | 0 人 | イベント自粛 |
| ④ 雪のおうちイグルーを作ろう | 1 回 | 18 人 | |

■ボランティア団体との協働イベント一覧

| イベント名 | 回数 | 参加者数 | 備 考 |
|-------------|-----|-------|--------------------|
| ① ながぐつの土ようび | 5 回 | 102 人 | 2回中止(雨天1回・参加者なし1回) |
| ② ツリーウォッチング | 6 回 | 97 人 | 10月は天候不良で中止、他は自粛 |
| ③ にぎわいフェスタ | 1回 | 12 人 | 1回中止(天候不良) |

2 市民参加・協働等

(1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れる準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動開始の遅れや活動内容の変更などにより当初計画通りの活動は困難であった。しかしできる限りの支援を行い、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

| 活動団体名 | 活動日数 | 参加者数 | 備 考 |
|--------------|-------|----------|----------------|
| 平岡どんぐりの森 | 16 日 | 延べ 80 人 | 人工湿地管理・環境イベント等 |
| 梅ボランティア | 9 日 | 延べ 37 人 | ウメ管理 |
| パークゴルフボランティア | 120 日 | 延べ 393 人 | パークゴルフ場管理・利用調整 |

■清田南公園の活動ボランティア

| 活動団体名 | 活動日数 | 参加者数 | 備 考 |
|----------------|-------|------|------------|
| 清田南公園野球場ボランティア | 244 日 | 1 名 | 少年野球場の利用調整 |

(2) 平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、例年ボランティア団体や大学、研究者等と連携会議を開催しているが、令和3年度はコロナ禍のため会議を行う事ができなかったが、令和4年度は、「はらっぱ会議」を1回開催した。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,576,400 円 (平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

2.9 ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓発並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を開催した。令和4年度は計画通り全ての講習会を実施した。なお、実施した園芸講習会・クラフト講習会の開催に際しては密にならないように、定員を半数にし、換気等の感染防止対策を実施して対応した。

樹芸センター年間来館者は85,897人(R3:73,722人)となり、昨年度の来館者より12,175人の増となった。

■自主事業による開催イベント一覧 ※庭園コンサート、スノーキャンドルも入れてください

| 事業名 | 回数 | 参加者数 | 備考 |
|---------------------|-----|--------|--------------------|
| ① 園芸教室 | 15回 | 延べ132人 | マツ、オンコ、モミジ、果樹等の剪定等 |
| ② クラフト教室 | 1回 | 延べ15人 | あけびと藤つるを使ったつりかご製作 |
| ③ オリエンテーリング | 2回 | 延べ317人 | 春と秋のクイズラリー |
| ④ ひらおか庭園コンサート | 1回 | 延べ848人 | 庭園コンサート |
| ⑤ まちに灯りをinみどりーむ2023 | 1回 | 延べ100人 | スノーキャンドル |

2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」を適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理を実施することができた。

また、ともにボランティア活動をしている「樹木会」は、新型コロナウイルス感染への自主的な予防対策から、9月10月の期間について活動を一時休止した。活動日数については昨年度よりは多かった。

■ボランティア団体の活動状況

| 団体名 | 活動日数 | 参加者数 |
|----------------|------|--------|
| 環境サポーターズ 三次郎の会 | 31日 | 延べ242人 |
| 樹木会 | 23日 | 延べ37人 |

環境サポーターズ「三次郎の会」と共催している「庭園コンサート」、「スノーキャンドル」については、3年ぶりに開催し、多くの来園者で賑わった。

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、週2回(水曜、土曜)、対面と電話相談による緑の相談業務を行っている。相談件数は664件(R3年470件)

4 利用料金収入

利用料金収入合計 33,030円(R3年21,680円・講義室)

1 維持・管理運営

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を乗り越えていくため、「新しい日常」に対応した、来園者・利用者が安心して利用できるような密にならない使い方やにぎわいづくりの提案と実施に努めた。

こうした中、GWを前後にはサクラの観賞を楽しみにしていた来園者が行き交うなど、一定の行動規制の下で静かなにぎわいとともシーズンがスタートした。

公園の維持管理面では、グリーンシーズン前からいち早く融雪を進め、天候や利用状況等に応じて作業を行った結果、植物も順調に生育するなど、総じて計画どおり管理することができた。特に前年度晩秋に札幌市が発注した大規模な張り芝の活着のため、特に灌水や芝刈りのタイミングに留意し、順調な生育につなげた。

また、引き続きボランティアとともに花壇づくりやサンルームの植物を管理するなかで、彩り豊かでうるおいのあるオープンスペースづくりを進めるとともに、熟練したスタッフが適切な樹木管理を行うなど、ポプラやシラカバを中心とした北海道らしい景観形成と健全な植物管理に精励した。

冬季は、冬の公園利用を進める中核施設として、安全で快適な利用空間と各種事業の実施のため、多目的広場や歩くスキーコースを中心として圧雪・整備に努めた。また、駐車場や園路の除排雪、四阿をはじめ施設の雪下ろしなど、安全で快適な公園利用と施設の維持管理に留意した。

管理運営面では、農試公園は約5年に及ぶ施設改修工事の折り返しの最中、特に札幌市との連絡・連携を密にして安全で快適な公園利用に努めた。一方、引き続きコロナ禍での施設管理と事業展開を強いられるなどの中、講習会や運動教室、また草花や樹木、自然環境などに関する情報を発信・提供するとともに、緑化、生物多様性、環境等に関する啓発にも取り組んできた。さらに、市民の健康づくりと様々なスポーツを楽しむことができる運動公園としての役割と、幼児や児童を連れた家族利用が多いという特徴を捉えた利用プログラムの実施と情報発信により、満足度の高い運営と公園の価値向上に意を用いた。

社会全体とのつながりでは、『持続可能な 2030 年までの開発目標 (SDGs)』に賛同し、持続可能な社会の実現に向けて、特に「すべての人に健康と福祉を」、「質の高い教育をみんなに」、「住み続けられるまちづくりを」、「陸の豊かさを守ろう」、そして「パートナーシップで目標を達成しよう」などの目標を中心に、日常管理からイベントやプログラムに至るまで積極的に意識して取り組んだ。

(1) 施設の利活用・自主事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置を講じた上で、各施設の適正利用とイベントや講習会の開催等に努めた。

ア 有料施設

(ア) 農試公園屋内広場

<アリーナ>

一般的なスポーツ利用のほか、幼稚園等の運動会や職場やサークルのレクリエーションなど、多様な利用目的に対応するよう営業・誘致した。

<サンルーム>

市民の休憩や冬季の採暖のほか、各種講習会の会場として活用するなど、公園の中核施設の一部として利活用した。

(イ) 同野球場

融雪を早めるとともに、良好な芝生の維持などグラウンドコンディションの維持・向上に努めて利用促進を図った。

(ウ) 同硬式テニスコート及び軟式テニスコート

融雪を早めるとともに、適宜、落ち葉清掃を行うなどコートコンディションの維持・向上に努めて

利用促進を図った。

(エ) 発寒西陵公園硬式テニスコート

融雪を早めるとともに、適宜、落ち葉清掃を行うなどコンディションの維持・向上に努めて利用促進を図った。

イ 無料施設

(ア) 農試公園ちゃぷちゃぷ広場

改修工事のため利用停止

(イ) 遊戯広場

改修工事のため利用停止

(ウ) 同トンカチ広場・自転車貸出・交通コーナー

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置を講じた上で、各施設の適正利用に留意して利用促進を図った。

(エ) 同多目的広場

＜グリーンシーズン＞

毎日の巡視点検により、安全で良好なコンディションの維持に努めて利用促進を図った。また、土・日・祝日など混雑が予想される際は、臨時駐車場として開放した。

＜ホワイトシーズン＞

毎日の巡視点検と除雪・整地等により、安全で良好なコンディションの維持に努め、冬季利用の促進を図った。

(オ) 同歩くスキーコース

毎日の巡視点検を行うとともに、コースカッターによる整備を行うなど冬季利用の促進を図った。

ウ 自主事業

利用者サービスの向上や業務の効率化を図るとともに、新しい日常に柔軟に対応した公園事業を支える収益の確保とコスト削減に向けて次のとおり取り組んだ。

(ア) イベント・講習会

| イベント名 | 開催回数 | 開催月 | 参加人数 | イベント名 | 開催回数 | 開催月 | 参加人数 |
|------------------|------|-------|-------|--------------|------|-------|--------|
| ①はじめての自転車教室 | 18回 | 4月 | 165人 | ⑨ハロウィンかざり | 1回 | 10月 | 20人 |
| | | 5月 | | ⑩コキアのほうきづくり | 2回 | 10、3月 | 4人 |
| ②苔玉づくり講習会 | 2回 | 5、8月 | 4人 | ⑪クリスマスリースづくり | 2回 | 11月 | 29人 |
| ③凧づくり講習会 | 1回 | 5月 | 3人 | ⑫しめ縄リースづくり | 1回 | 12月 | 6人 |
| ④ノルディックウォーキング講習会 | 6回 | 5～10月 | 68人 | ⑬門松づくり | 1回 | 12月 | 19人 |
| | | | | ⑭新春たこ作り | 1回 | 1月 | 45人 |
| ⑤のうしミニ夏まつり | 2日 | 7月 | 約800人 | ⑮歩くスキー講習会 | 2回 | 1、2月 | 16人 |
| ⑥置き風鈴づくり | 1回 | 8月 | 1人 | ⑯ナチュラルリースづくり | 1回 | 3月 | 5人 |
| ⑦のうしミニ秋まつり | 1日 | 9月 | 400人 | ⑰わいわいタイヤチューブ | 19回 | 1～3月 | 2,838人 |
| ⑧忍者になって修行だ！ | 1回 | 10月 | 10人 | | | | |

(イ) スポーツ教室

| 教室名 | 回数 | 参加者(延べ) | 教室名 | 回数 | 参加者(延べ) |
|------------------------|------|---------|------------------------|------|---------|
| のうしサッカースクール (毎週水曜日) | 32 回 | 883 人 | のうしかけっこスクール (毎週水曜日) | 32 回 | 525 人 |

(2) 広報活動

ア 公式ホームページ

基本的な利用情報と公園の利用促進につながる四季折々の自然、開花情報、イベント・プログラム、ボランティア活動、園内工事情報、有料施設の情報など、タイムリーな更新に努めた。

イ 情報紙等の作成・配布

公園のイベント情報を掲載した広報紙「農試公園だより」を市内各施設や近隣町内会等に配布するなど、公園の利用促進に努めた。

ウ その他

広報誌、フリーペーパー等に積極的に情報提供するとともに、スタッフが地域FMラジオ局に出演し、公園の基本情報と魅力、施設や植物の情報を伝えるなど、公園を紹介することにより認知度の向上を図るとともに利用促進のためのPRを行った。

2 市民参加・協働及び地域連携等

(1) 登録ボランティアの活動

カポック(農試公園緑化活動ボランティア)

登録人数:13人

活動日:毎週月曜日

屋内広場サンルームの植物管理や修景、園内の花壇づくりなどについて、スタッフがサポートした。

(2) 地域等との連携

地域を対象とした西区防災実技研修、西区防災訓練(西区主催)への実施協力

「八軒まちづくり協議会」への参加

西区みんなで楽しむマラソン大会 : コロナ禍により中止

西区雪合戦大会(西区主催) : コロナ禍により中止

スノーキャンドルの作成・点灯 R5.1.21 開催

(3) 近隣小学校との連携

八軒西小学校の総合学習及び職業体験への対応(花壇及びプランターへの花苗等植え込み)

(4) 関係機関等との連携

交通安全子供自転車体験教室の開催:北海道交通安全協会との共催

西区運動施設利活用協議会 : コロナ禍により活動中止

3 利用料金収入

利用料金収入合計 14,948,380 円

(農試公園屋内広場アリーナ・野球場・硬式及び硬式テニスコート、発寒西陵公園硬式テニスコート)

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内4箇所の運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理運営事業を行っている。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にある有料運動施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてテニス講習会を企画し、また地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたクラブ体験や「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」等のイベントを企画した。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

| 月日 | 名称 | 参加者数 |
|-----------------|-----------------------|------|
| 6/5、26 | 初級・中級テニス講習会 | 31名 |
| 9/25 | 愛犬と一緒にの公園お散歩講座 | 9名 |
| 11/ 11,12,13 | ナチュラルリース講習会(午前午後/計6回) | 43名 |
| 1/21 | 冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう | 30名 |

(2) 有料運動施設の情報発信による利用機会の向上

公式ウェブサイト内に有料運動施設(テニスコート)の利用状況を発信するカレンダーツールを使用し、迅速な情報更新をすることにより、利用者が施設予約の際の日程調整をしやすいよう工夫した。

(3) 新たなスポーツの場としての協力

札幌市による手稲区内でのスケートボードパーク構想の調査結果に基づき、8月1日から10月30日まで仮設のスケボーエリアが設置・開放され、エリアの解錠、スケーターへのヒアリング等の協力を行った。

2 市民参加・協働等

3 公園とも周辺に複数の町内会がある住宅街の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行っている。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催してきた。昨年度に引き続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催は中止となったが、参加組織のメンバーとは個別に情報交換を行う機会を持ち、公園管理運営に反映させた。

また、手稲稲積公園のパークゴルフ場ではボランティア活動の取組として、同好会団体と協働でコース管理等の活動を実施し、利用者の声を直接聞くことで管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

例年、近隣の小中学校等の教育機関による「体験」や「学び」の場としての公園利用への協力や、地域の児童会館との協働した花壇の美化活動、地域イベントへの参画・協力など、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図ってきた。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、町内会行事と児童会館行事が令和4年度も中止となったが、地域の就労施設による植物ボランティアへのサポート、児童会館の花活動、前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動への協力、連合町内会の街路樹植栽花壇の緑化・美化活動への協力等

を通し、地域における公園の価値向上に努めた。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に当公園管理事務所も加盟しており、同団体による地域の防犯・防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、通勤通学などで園路を通して JR やバスなどの公共交通機関利用者が冬期間でも安全に通行できるよう、降雪状況に応じて園路除雪作業を実施した。

■地域との連携等の実績一覧

| 月日 | 名称 | 主旨・内容 | 実施/中止 |
|-------|-------------------------------|---|-------|
| 4月～ | 鉄工団地通街路樹花壇のメンテナンス活動 | 毎週1回実施される就労継続支援施設「ていね・さくら館」によるボランティア活動への協力 | 実施 |
| 5/11～ | いなづみ花クラブ(全4回) | いなづみ児童会館の小学生と、花壇植栽や水やり、手入れ等を通じて植物が成長する喜びや学びを体験する活動 | 実施 |
| 5/28 | 稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽樹花壇造成 | 稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹 34 コマへの花壇造成用の花苗保管、資材提供と技術指導・協力 | 実施 |
| 7/11 | 稲積小学校3年生園内ゴボウ駆除体験 | 稲積小学校 3 年生により、外来種であるゴボウの駆除をとおり、外来種の及ぼす影響等の体験実習を実施 | 実施 |
| 7/22～ | 稲積安心・安全まちづくり協議会「夏休み非行防止教室」 | 協議会加盟。総会、役員会は中止。7 月 22 日に稲積中学校で夏休み前の「非行防止教室」に参加 11 月落葉清掃を実施 | 実施 |
| 7/23～ | 前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動 | 7 月以降毎月第 4 土曜日に開催される委員会による公園清掃活動への協力 | 実施 |
| 8/6 | 前田ふれあいまつりへの協力 | 前田連合町内会が主催する夏まつりの運営に協力し、体験や売店等の催事出店 | 中止 |
| 10/23 | 稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽樹花壇造成 | 稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹 34 コマへの花壇造成用の資材提供と協力 | 実施 |
| 11/12 | 稲積安心・安全まちづくり協議会落葉収集ボランティア作業 | 稲積連合町内会と協働で公園前道路の落葉収集ボランティア作業への協力 | 実施 |
| 11/18 | 公園利活用協議会 | 公園周辺地域との意見交換や情報共有を通じて連携・協働を図る場として開催 | 中止 |
| 1/21 | 冬のまちにスノーキャンドルの灯りを灯そう！in手稲稲積公園 | いなづみ児童会館の子どもたちと一緒にスノーランタンを作り会場設営を実施 | 実施 |
| 3/16 | いなづみ児童会館連絡協議会 | いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、年度の事業報告と次年度事業の検討 | 実施 |

3 利用料金収入

令和4年度は新型コロナウイルス対策による施設閉鎖のない年となり、4月20日から11月30日まで予定どおり開放できました。また令和元年に砂入り人工芝コートに改修された手稲稲積公園の大会利用の増加と、令和3年度砂入り人工芝コートに改修された北発寒公園テニスコートの利用が好調だったため、増収となった。

利用料金収入合計 13,513,620 円(手稲稲積公園テニスコート・野球場、北発寒公園テニスコート・野球場、前田公園野球場)

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、ポプラ並木やカナルをはじめとした壮大な景観と、ふるさとの森、つどいの森、野鳥の森等公園の過半を占める樹林帯の自然環境の保全、芝地・草地や野球場・球技場・パークゴルフ場等の有料運動施設の管理においては、特に利用者の安全に留意した維持管理作業を実施した。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりつつ、公園施設を段階的に開放していくとの札幌市の方針に従い、コロナ禍で3年間閉鎖となっていたバーベキュー広場の開放をはじめ、ふじまつり等のイベント実施も可能となったことから、利用者への施設状況の案内、来園者に安心してご利用頂ける消毒・衛生体制等の対策を講ずるとともに、状況に合わせた園内掲示物の掲出やホームページ等の活用を中心とした広報活動を行った。

(1) 安心・安全な公園づくりとコロナ禍への対応

① 被害を未然に防ぐ適正な樹木管理と植物リサイクルへの積極的な取り組み

前田森林公園敷地の過半が樹林帯であることから、樹木管理においては枯損木や枯損枝、危険木等の伐木処理について、公園利用者の通行往来や隣地・公園施設への被害が想定される箇所から段階的に実施するとともに、サブマネージャー以上の職員が保有している高所作業車の運転操作に係る技能のスキルアップを図り、警報級の暴風雨により発生する被害木を安全かつ迅速に処理できる体制づくりに努めた。

令和4年度は高所作業車を利用して前田森林公園パークゴルフ場のコース外植栽高木の剪定や、花木園外縁の高木植栽の剪定を実施して、被圧による生育不良が目立ったパークゴルフ場の芝生や花木園の花木への日照を確保するとともに、垂れ下がりの目立っていた園路沿いのシナノキ類やハルニレ・ケヤキ等の剪定を実施し、来園者の通行の多い主園路を中心に安全安心な環境づくりを行った。

加えて、樹林地内での折れ枝や枯枝、リサイクルヤードの枯損木のチップ化処理や樹木の株元へのマルチング処理、園内で発生した落葉の腐葉土処理等の植物リサイクルを積極的に進めた。

② 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の対応と情報発信

市の方針に従い、バーベキュー広場の開放をはじめ、ふじまつり等のイベント開催、利用者への施設状況の案内とあわせ、前田森林公園内施設、山口緑地の管理棟、各パークゴルフ場クラブハウス等のアルコールによる定期的な消毒、換気、ソーシャルディスタンス確保の措置等、来園者に安心してご利用頂けるよう消毒・衛生体制等の対策を講じた。

こうした公園を取り巻く状況変化に対応した園内掲示物の掲出やホームページ・SNS等の活用を中心とした広報活動を行った結果、今年度の公式ホームページへのアクセス数は194,111件で昨年比166.8%、公式ツイッターは3月末のフォロワー4,678人で昨年比101.1%となり、いずれも増加傾向となった。

(2) 公園の利用促進につながる自主事業と、ボランティアや教育機関との連携

公園の魅力を高め、公園資源を活用して利用促進を図ることを目的としたボランティア団体の活動や教育機関との連携による環境学習やイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りつつ実施調整を行い、前田森林公園のフジの開花期に前田森林公園ボランティア組織と協力して実施してきた「ふじまつり」を3年ぶりに開催したほか、「トンカチ広場」、「自然観察会」を計画通り実施することができた。

冬期間は、コロナ対策をとりながらクラフト系イベントやクロスカントリースキー講習会を開催した。

特に歩くスキーレンタルやスノーラフティング等の冬のアクティビティは、広報さっぽろ手稲区版に特集記事が掲載されたこともあって、利用者が大幅に増加し、冬の公園の利用促進と市民の健康づくりの場として多くの利用者に好評であった。

■利用促進事業一覧

| 利用促進事業 | 開催時期・回数 | 参加者数 |
|--------------------------|--------------|--------|
| ①カナル春・夏・秋清掃 | 4月7月、11月(3回) | 90人 |
| ②トンカチ広場(3回は雨天中止) | 5～10月(10回) | 461人 |
| ③ふじまつり(共催・規模を縮小して実施) | 6月1日(1日) | 700人 |
| ④自然観察会 | 5～12月(6回) | 173人 |
| ⑤はじめてのパークゴルフ講習会(前田森林・共催) | 6月(3回) | 34人 |
| ⑥パークゴルフ交流大会(前田森林・協賛) | 7月23日(1日) | 76人 |
| ⑦木の実のリース講習会 | 11月(4回) | 20人 |
| ⑧ミニ門松づくり講習会 | 12月(2回) | 7人 |
| ⑨クロスカントリースキー初心者講習会(レベル別) | 1月(3回) | 55人 |
| ⑩歩くスキー簡単初心者講習会 | 1,2月(5回) | 42人 |
| ⑪歩くスキーレンタル | 1～3月(60日) | 2,234人 |
| ⑫スノーラフティング | 1～3月(20回) | 283人 |

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

札幌市の公園施設における新型コロナウイルス感染拡大防止対策に沿いつつ、公園への親近感の醸成や更なる利用・活用を促すことが出来るよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を活かした活動を支援した。

(1)公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、フジの開花期に「ふじまつり」を3年ぶりに開催したほか、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場や公園の四季の移り変わりや動植物の観察ができる自然観察会を開催した。

また、前田森林公園クリーンボランティアのほか、広報さっぽろで参加を呼び掛け、一般市民の方に気軽にボランティア活動に参加いただけるよう、カナルを中心とした公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に協力・貢献していただいた。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など(5～12月)
トンカチ広場 10回(内3回は雨天中止) 延べ461人
自然観察会 6回 延べ173人
- ・市民ボランティアによるカナル清掃 3回 延べ90人

(2)教育機関の公園フィールドでの活用(前田森林公園)

近隣の教育機関からの授業・実習の協力依頼を積極的に受け入れた。

- ・北海道科学大学 メディアデザイン学科 40人 1日間
- ・北海道札幌高等養護学校 11人 延べ10日間

3 利用料金収入

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う有料施設の閉鎖措置は無かったため、前年度より10,614,605円の増収となった。ただ、利用料金施設のうち、個人利用に供する施設であるパークゴルフ場は利用者のほとんどが高齢者ということもあって、コロナ禍前の水準までは回復しなかった。

利用料金収入合計 23,637,110円(前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場)

厚別公園

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、各種運動教室や陸上クラブ、一般社団法人札幌陸上競技協会との共同で札幌陸上競技フェスティバル、小学生陸上競技クリニックを開催した。

(1) 各種運動教室の実施

新たに「カラダすっきりストレッチ」教室をスタート、トータル 30 教室とした。新型コロナウイルス感染症防止対策の段階的緩和に伴い積極的な広報活動を再開、のべ11,731人の参加があり、健康増進と施設の有効利用を推し進めることができた。

(2) 厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー (Atsubetsu Athlete Academy) を任意団体「North Sprint Dept.」と連携し継続運営した。事業の運営に当たっては、無料体験会を開くなどの活動に努め会員増加を図りのべ5,439人の参加があった。

(3) 主催陸上大会、教室の開催

陸上競技場施設を最大限活用し、次世代アスリートの発掘等を進める為に一般社団法人札幌陸上競技協会と共同で主催大会、教室を開催した。

- ・札幌陸上競技フェスティバル 3 日間 参加選手のべ3,361名
- ・小学生陸上競技クリニック 3回 参加者 204名

2 市民参加・協働等

(1) 「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。

- ・厚別フラワーボランティア 14 日
- ・ラブアース・クリーン・アップ in 北海道 6名

(2) 小学生を対象とした札幌市の事業「ウインタースポーツ塾」の実施に当たり、コンソーシアム団体である(一財)札幌市スポーツ協会と協力して設営準備等を行い、冬季の競技場利活用に寄与した。

- ・ウインタースポーツ塾 80 名

3 自主財源による利益還元

令和4年度も引き続き、(一財)札幌陸上競技協会と協議し、円滑に大会運営が行えるよう、イレーサーフェンス(仮設柵)を購入した。

4 利用料金収入

利用料金収入合計20,045,741円(主競技場、補助競技場、トレーニングルーム、会議室、貸し備品)

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

今年度、西岡公園管理事務所の展示室では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休館日は無く、通常通り解放することができ、公園内の自然情報については季節に応じた触れる展示を中心に行い、ホワイトボードや公式ウェブサイトにて常時リアルタイムの発信に努めた。

園内で見られる生物紹介展示は多くの来館者から好評を得ており、季節毎にテーマを変え展示を行ったほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。

季節に合わせて、ミズバショウやハリオアマツバメ、ヒグマ、落ち葉や冬芽、その他鳥類等の紹介展示の他、西岡公園の水辺に生息するヌマチチブ、トミヨなどの淡水魚の生体展示を継続して行うなど、自然への理解や関心を深めるきっかけとなる情報の提供ができた。また、公式ウェブサイトでも最新の自然情報等を発信し、自然観察等の公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

年間を通して、3年ぶりに計画通り実施することができた。西岡公園の植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説するおさんぽガイドを昨年同様に定員ありの予約制として実施した。工作イベントについては部屋内を十分換気するとともに、参加者やスタッフが密にならないよう工夫をしながら実施した。特定外来生物の防除活動としてのオオハンゴンソウの駆除はボランティアと協働で実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。駆除の成果が個体数は減少してきている。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携し、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。

「西岡プレーパーク」、未就学児親子対象の「ちょこっとプレーパーク」を実施した。新型コロナウイルス感染状況が落ち着いた雰囲気もあり前年よりも参加者が増えた。ちょこっとプレーパークは平日に遊べる場や保護者同士のつながりの場を提供することができた。

2 市民参加・協働等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では6つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め、令和4年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、活動や様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア3団体の協力により、新北海道スタイルに取り組みつつ、プレーパークや自然観察、木工クラブなどを開催し、参加者に公園と自然の魅力を提供することができた。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策、定員の設定等、広報も例年に比べ少し抑えて開催した。

秋の「にしおかピクニック」や冬の「スノーキャンドルイベント」については、コロナ禍前の状態に少しずつ戻し実施することができた。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

| イベント名 | 参加者数 | イベント名 | 参加者数 |
|-------------------------|------|--------------|------|
| ①おさんぽガイド | 137人 | ②ちょこっとプレーパーク | 293人 |
| ③西岡プレーパーク | 283人 | ④にしおかピクニック | 435人 |
| ③冬の西岡公園にスノーキャンドルの灯りを灯そう | 120人 | ④子りす工房 | 80人 |

(2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

積雪が多かったものの雪割を実施すると融雪が早く、多目的広場は4月5日から、パークゴルフ場は5月3日からのオープンとなったが、春先から新型コロナウイルス感染症対策を行いつつパークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働でオープン準備や園内施設の維持管理を実施したほか、オープン後も北海道スタイルを守りながら維持管理等を行った。また、利用者の意見・要望等を聴取し、管理や活動に役立てるよう努めた。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園の多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多いとされる西岡公園でのトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、子どもたちによる1年間の調査活動参加者を募集し、それぞれ調査の実施から成果を公開する活動報告展・展示解説までを年間プログラムとして設定して活動した。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りつつ、当初の計画通り実施する事ができた。

活動報告展について今年度は、前年度と同じく市内3会場（西岡公園・博物館活動センター・円山動物園）で実施し、昨年実施する事ができなかった団員による会場設営や展示解説（円山動物園）も行うことができた。

これらの活動は、専門家や子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生がボランティアスタッフとして指導や運営のサポートに関わることで、環境教育活動の促進や、環境保全の啓発等につなげることができた。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

| 団体名 | 活動日数 | 参加者数 | 活動内容 |
|--------|------|--------|-------------|
| 西岡さかな組 | 10日 | 延べ 86人 | 水生生物の調査 |
| 西岡ヤンマ団 | 9日 | 延べ 88人 | トンボの調査、標本作り |

4 利用料金収入

令和4年度は例年と同時期の4月23日からの利用開放となり、シーズンを通して利用していただく事が出来た。利用状況に合わせ清掃や補修をこまめに行うなど、利用促進に努めた他、好天にも恵まれ利用が増え、ここ数年（H27年以降）で一番の売上げとなった。

利用料金収入 863,360円

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

ア 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの市民に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。入館者数は、新型コロナウイルス感染症防止対策の規制が緩和されたため個人・団体ともに入館者が増え、前年度比 186.8%の 52,856 人となった。

イ サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に定着しており、3 日間で 2,692 人が参加した。多くの市民が来館する機会に、放流魚だけではなく、豊平川の野生サケについての普及啓発も実施した。8 月 9 日(火曜日)から 11 日(木曜日)の 3 日間、札幌ドームにおいて、北海道日本ハムファイターズとの連携事業を実施した。試合会場で子供向けサケ学習イベントを実施し、多くの来場者にサケについての教育普及やさけ科学館の PR をすることができた(3 日間の観客動員数、約 70,000 人)。9 月の大きな集客イベントである「サケフェスタ」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、その代わりとして「サケとふれあうミニイベント」を小規模で開催したが、台風の接近及び雨天のため来場者数は伸びず 314 人となった。

サケ学習の指導・協力としては、東白石小学校や東橋小学校等に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

ウ その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを、新型コロナウイルス感染症防止対策を施して、3 密にならないよう気をつけて企画・実施した。

■体験イベント一覧

| イベント名 | 参加者数 | イベント名 | 参加者数 |
|-------------------|----------|-----------------|----------|
| サケたちのエサやり体験(10 回) | 延べ 243 人 | サケタッチプール(5 回) | 延べ 603 人 |
| 知る・見る カニさん、ザリガニさん | 延べ 29 人 | 琴似発寒川サケ観察会(2 回) | 延べ 237 人 |
| 琴似発寒川さかなウォッチング | 延べ 7 人 | 豊平川サーモンウォッチング | 延べ 18 人 |
| 真駒内川さかなウォッチング | 延べ 18 人 | サケの採卵実習 | 延べ 27 人 |
| 星置川さかなウォッチング | 延べ 20 人 | サケの人工授精体験(3 回) | 延べ 174 人 |
| 公開さかな調査 | 延べ 79 人 | | |

(2) 他団体と連携した活動

ア 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体・大学・行政及び研究機関との連携を進め、運営の活性化に努めた。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にもできる限り協力するように努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は 36 年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行っている。

※R4 年度ボランティア活動(日数/人数) 138 日/225 名

イ 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約7割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚(耳石温度標識を施標)の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。また、1月28日(土曜日)に札幌エルプラザにおいて開催された「札幌ワイルドサーモンプロジェクト 市民フォーラム 2023 札幌にもアラスカにもサケは生きる」では、会場40名・オンライン72名、計112名の参加者であった。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてホームページや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

| 河川 | 産卵数 | 推定遡上数 | 河川 | 産卵数 | 推定遡上数 |
|-------|----------|---------|-----|--------|-------|
| 豊平川 | 1,324 箇所 | 2,648 尾 | 星置川 | 118 箇所 | 236 尾 |
| 琴似発寒川 | 446 箇所 | 892 尾 | | | |

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

56地点で調査を実施し、計24種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から37年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

4月16日から6月19日(計7回)に、「両爬の生態系をかんガエル札幌市南区チーム(かんガエル)」による国内外来種「アズマヒキガエル」の防除作業に協力し、情報を共有した。

6月10・11日、7月21日、8月30日、9月29日に、札幌市環境局環境都市推進部環境管理担当課及び北海道大学地域科学研究室による、豊平川と簾舞川合流点付近及び厚別川滝野すずらん丘陵公園付近の生物相調査及び特定外来生物の「ウチダザリガニ」調査に協力し、情報を共有した。

(3) 大学・研究機関・行政等の調査・研究等への協力

大学や研究機関・行政等からの調査・河川工事・実習等への協力、調査記録の提供等、計76件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先:札幌市(水道局、下水道河川局河川事業課、環境局環境共生担当課、円山動物園)、札幌河川事務所、札幌建設管理部、下水道科学館、北海道大学、東海大学、日本大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

平成 30 年に再整備工事が終了した月寒公園は、大型遊具や貸ボート、水のあそび場等充実した施設が人気となり、休日は園内が混雑する状況が続いているが、安心安全な場の提供と、多様な公園活動、市民協働の推進に重点を置いて、管理運営に取り組んだ。

(1) 防災イベント「学ぼう！遊ぼう！月寒公園と防災」の開催

再整備後の月寒公園には、緊急貯水槽や災害用マンホールトイレなどの防災関連施設が充実したことから、これらの施設を災害時に効果的に活用するために、近隣住民を対象とした、防災イベントを開催した。札幌市水道局による「緊急貯水槽の説明会」や、マンホールトイレ設置業者による「マンホールトイレの説明会」のほか、豊平区市民部総務企画課や月寒公園ファンクラブの協力を得て、遊んで学べる防災プログラム「イザ！カエルキャラバン」より「水消火器の的あてゲーム」「毛布で担架タイムトライアル」を実施した。近隣住民81人が参加し、防災設備について学び、災害時の備えについて考える良い機会となり、今後の開催を望む声も多く上がった。

(2) 多様なイベントの開催

新型コロナウイルス感染拡大防止策を取りながら、月寒公園の再整備のコンセプトである「パークライフ」に基づき、様々な市民団体と連携して、つながりから生まれる多様な公園活動を推進した。また、平日の昼間には、月寒公園の利用が多い、乳幼児親子対象のイベントを、積極的に開催した。

■ 自主事業による開催イベント一覧

| イベント名 | 回数 | 参加者数 |
|--|-----|------|
| ① おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび(乳幼児親子対象) | 4回 | 38人 |
| ② つきさむパークヨガ | 3回 | 20人 |
| ③ きのみであそぼう | 22回 | 249人 |
| ④ 月寒公園ピクニック | 1回 | 280人 |
| ⑤ 親子でまき割り体験 | 1回 | 15人 |
| ⑥ 野の花を植えよう | 1回 | 32人 |
| ⑦ あそんどる！〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル | 1回 | 475人 |
| ⑧ つきさむこうえんであそぼうかあい(プレーパーク)(平日開催は乳幼児親子対象) | 33回 | 842人 |
| ⑨ パークライフカフェキタキツネ | 2回 | 37人 |
| ⑩ 幌南学園幼稚園月寒公園花壇づくり | 1回 | 89人 |
| ⑪ 月寒公園で俳句・詩吟講座 | 1回 | 5人 |
| ⑫ 学ぼう！遊ぼう！月寒公園と防災 | 1回 | 81人 |
| ⑬ 吉田川公園自然さんぽ | 1回 | 9人 |

(3) 北海道大学と連携したキツネ対策と普及啓発活動

月寒公園では、キツネが人に慣れ、エキノコックス症を心配する声があったことから、令和2年度よりキツネの研究者である池田貴子講師(北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP)と、キツネの生態調査に取り組んでいる。令和3年度以降はエキノコックス症対策として、エキノコックス駆虫薬入りベイト(以下ベイト)の散布を、月1回継続している。またキツネの糞を採取し、エキノコックスの感染率調査を実施したところ、すべて陰性となり、ベイト散布の効果が表れている。

また普及啓発活動として、夏休みと3月に「パークライフカフェキタキツネ」を開催し、キツネの生態調査やベイト散布の報告、調査体験等を行った。

広報物としては、キツネやエキノコックス症に関する情報を A5 サイズの紙にまとめた「セルフガイド」の無料配布や、動画「コンだけわかればいいしょ！キツネとのつきあいかた」を YouTube で配信するなど、キツネやエキノコックス症に関する正しい知識や情報の提供に努めた。

(4)有料施設の利用促進につながる「めぐりんカード」の実施

月寒公園には、貸しボートやパークゴルフ場など、気軽に楽しめる有料施設があることから、パークライフセンター売店を含めた3施設で「めぐりんカード」を配布し、スタンプを集めると、オリジナルグッズをプレゼントする取り組みを開始した。他の施設を利用するきっかけとなり、特にパークゴルフ場や貸しボートの利用促進につながった。

2 市民参加・協働等

(1)月寒公園市民協議会(月寒公園ファンクラブ)との連携

再整備を検討する中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共催で、「月寒公園ピクニック」(10月)と「あそんどる!〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル」(1月)を開催した。新型コロナウイルスの感染対策を取りながら、規模を縮小して開催したが、新しい公園の楽しみ方を提案する場として、地域交流の有意義な機会となった。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

| イベント名 | 活動内容 |
|--------------------------------|--|
| ①月寒公園ピクニック | 近隣高校の部活動等が演奏を披露する屋外コンサートや、月寒公園ファンクラブによるプレーパーク・アスレチック体験等のイベントを実施した。 |
| ②あそんどる!〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル | スノーキャンドルづくりと点灯、雪あそびやイグルーづくりなどを楽しむプレーパークを実施した。 |

(2)ボランティアとの連携

月寒公園では2団体が活動しており、特に月寒公園ボランティア会は、花壇の管理やシバザクラエリアの除草、イベントのサポート等、精力的に活動した。吉田川公園では、パークゴルフ場の管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、市民協働による維持管理を進めた。

■ボランティア団体による活動一覧

| 団体名 | 登録人数 | 活動内容 |
|-------------------------------|------|-----------------------------|
| 月寒公園ボランティア会 | 12人 | シバザクラエリアの除草、花壇の管理、イベントのサポート |
| 月寒プレーパークの会 | 8人 | プレーパークの開催 |
| 東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア) | 3人 | 多目的広場の管理運営 |
| 吉田川公園パークゴルフ振興会 | 7人 | パークゴルフ場の管理運営 |

3 利用料金収入

利用料金収入合計 7,959,540円

(月寒公園野球場(坂下・高台)・テニスコート・パークゴルフ場・貸ボート、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市街地を一望できる眺望と、札幌市内でありながら豊かな自然環境がある当該公園を活かし、多様な環境教育事業を企画し、市民団体や近隣教育機関等と協働で実施するとともに、公式ウェブサイト等によるタイムリーな野鳥等の自然情報を発信し、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。令和3年度に当該公園で出没が確認され、近年札幌市内でも出没が相次ぐヒグマについて、引き続き生態、藻岩山等近隣での出没情報、注意喚起等の看板を各所に設置し、ヒグマへの知識や対策についての普及啓発に努めた。

(1) 自然豊かな環境を生かした環境教育の場の提供

市街地に近い場所にありながら、気軽に豊かな自然が楽しめる環境であることから、森林浴やバードウォッチング等で近隣や市内各所から幅広い方が来園、利用された。また野鳥や自然をガイドする観察会等の自然に親しむイベントを年間通して開催し、環境教育の場の提供に努めた。森の家の自然関係の図書を閲覧できる図書コーナーでは、札幌市の寄贈等により新刊を追加しており、蔵書の充実を図った。当該公園を拠点に自然環境プログラム等の活動を展開する「旭山記念公園市民活動協議会」の登録団体、旭山森と人の会の活動で、丸太を輪切りにした板材で作成した樹名板を公園内の樹木に取り付けることで、樹木に関心を持ってもらえるように努めた。

(2) 生物多様性を保全する活動の推進

近隣小学校の依頼で、当該公園の歴史や自然環境を調査して学校新聞を作成する総合学習「旭山ウォーカー」に協力した。身近な公園を通して豊かな自然環境等を学ぶ内容で実施し、環境保全の意識啓発を図ることができた。また旭山自然調査隊が主催する自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」の活動をサポートした。旭山都市環境林でエゾサンショウウオの生態調査・観察を行ったほか、オオムラサキの保護活動では、巨木の谷で育樹管理するエゾエノキの若木に、植樹後初めてオオムラサキが産卵、幼虫の発見等の成果があり、地域の自然や環境について学び、守る活動に協力した。

(3) 公園の特徴を生かした広報活動

公式ウェブサイトでは野鳥等の自然情報、施設情報、環境教育事業のイベント情報等について185件更新し、閲覧回数は304,943件だった。昨年度実績比は約116%で毎年増加が続いている。レストハウスを含めた展望広場等の観光やオープンスペースの利用とともに、自然散策や野鳥観察に適する当該公園の豊かな自然環境が広く認知され、タイムリーな野鳥情報等を求める方の情報源として利活用されたことが窺え、ヒグマの情報を目的に閲覧する方が増加していることも推測される。

(4) 社会福祉への貢献

令和3年度から新規の福祉団体にレストハウスの管理運営を委託しており、障がい者の自立に向けたサポートを行った。レストハウスでの売店運営や清掃のほか、テイクアウトメニューの下拵えやオリジナル商品の制作など、間接的な面においても就労機会の創出に貢献した。また引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底して営業を行い、スタッフに感染者は発生しなかった。

■普及啓発・利用促進イベント一覧

| イベント名 | 参加者数 | 活動内容 |
|------------------------|------|---|
| 野鳥観察会(29回) | 404人 | 旭山記念公園を散策しながら野鳥のガイドを行う。 |
| 自然観察会(4回) | 45人 | 旭山記念公園および旭山都市環境林を散策しながら、植物・昆虫・野鳥などのガイドを行う。 |
| 旭山記念公園フォトコンテスト | 47人 | 旭山記念公園で撮影した野鳥の写真を公募し、審査と来館者の投票によりグランプリを決めるイベント。審査後、20作品をレストハウスにパネル展示。 |
| カルチャーナイト2022 | — | Youtube「カルチャーナイト公式チャンネル」にて、旭山記念公園および旭山都市環境林で観察できる生きものを動画で紹介。 |
| バードウォッチャーのための樹木観察会(2回) | 20人 | 野鳥と樹木の関わりについてガイドを行う。 |

| | | |
|------------------------|-------|--|
| 薪割り体験会 | 20 人 | 伐採等で発生した木材を使用して薪割りを行う。 |
| クリスマスリース作製体験 | 7 人 | 旭山記念公園で採取した自然素材などを使って、クリスマスリースを作成する。 |
| スノーシュー自然観察会(6回) | 100 人 | 冬期間、スノーシューを履いて旭山記念公園および旭山都市環境林を散策し、職員が自然のガイドを行う。 |
| ヒンメリを作ってみよう | 1 人 | 剪定等で発生した木材を使用して伝統装飾品「ヒンメリ」を作成する。 |
| おはし作り体験 | 8 人 | 伐採や剪定等で発生した木材を利用してお箸を作成する。 |
| ネイチャーカフェ「野鳥の鳴き声に強くなろう」 | 16 人 | 旭山記念公園で見られる野鳥の鳴き声を聞き、聞き分けのコツなどを解説する講習会。 |

2 市民参加・協働等

旭山記念公園市民活動協議会およびその登録団体と密接に連携し、近隣小学校との連携事業「旭山ウォーカー」を共催、また旭山自然調査隊が主催する「森のたんけん隊」等の環境教育事業の活動をサポートすることで、利用促進と環境保全の啓発に努めた。令和3年度、ヒグマ出没や新型コロナウイルス感染症拡大防止で中止した共催・協力イベントのうち「WONDER FOREST」、「旭山森のフェスティバル」を再開した。森の家の利用については、コロナ禍前までの状況に戻りつつあり、札幌まるやま自然学校を中心に自然体験学習・遊びの拠点として多くの利活用があった。

■市民協議会との共催事業一覧

| イベント名 | 参加者数 | 活動内容 |
|-----------------------------|------------------------|--|
| ①緑丘小学校連携事業「旭山ウォーカー」 | 約 150 人 | 近隣の緑丘小学校 4 年生の総合学習授業に協力。(当該公園の歴史や自然などについての講演、現地学習を実施) |
| ②旭山森のフェスティバル | 10 人 | 木工クラフト、薪割り体験、缶バッチ作り体験など子供向けのプログラムを開催。 |
| ③WONDER FOREST | 50 人 | 自然散策、薪割り体験、木工クラフトコーナーなど子供向けのプログラムを開催。 |
| ④冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう 2023 | 9 人 | 災害被災者への鎮魂、冬の公園利用の促進等を目的としたイベント。スノーランタン作成、キャンドル設置と点灯を行う。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当協会スタッフおよび市民協議会により実施。また同日、ろうソクを再利用したキャンドル作り講習会を開催。(参加者:8 人) |
| ⑤星空観察会 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 | |
| ⑥旭山冬のフェスティバル | | |

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務を受託する共同体の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) ヒグマ対策 園内侵入防止対応、外周柵監視、巡回点検等
- (5) 入園者数 年間 412,746 人(国の示す目標値 542,000 人の 76.2%)

2 利用指導及び利用サービス等

(1) 利用促進事業

- ① きのたんメール：春、夏、秋、冬号として、計 4 回発行
※例年発行していたすずらんメールの名称を変更
- ② 札幌市営地下鉄さっぽろ駅デジタルサイネージ広告：5/1～3/31 期間中 4 回内容変更し放映
- ③ 札幌市内スキー場連携ライブカメラ設置(星野リゾート OMO3)12 月～3 月
- ④ 第 3 回米そり選手権参加者募集告知 CM(UHB)1 月

(2) ボランティア活動

- ① フラワーガイドボランティア 登録 27 名(延べ 416 名)、活動日間 162 日
グリーンシーズンの活動は、新型コロナの影響も緩和され、クマの園内侵入もなかったことから、3 年ぶりにチューリップの開花から秋のコキアに至る予定全期間で来園者へのガイドができた。ガーデンツアーは人数をガイド 1 人に対して 5～7 人と制限し、ガーデン等の見どころで来園者へのスポット解説を実施した。また、新しい試みとして、小学生を対象としたフラワーガイド「お花の不思議発見隊」を実施した。
- ② 滝野の森クラブ 登録 49 名(延べ 1,675 名)、活動 185 日間
昨年引き続きコロナ禍ではあったが感染防止対策ができる範囲で各種活動を行った。夏季はおさんぽガイドや森あそび、生きもの探しなどのイベントのほか、滝野の歴史の調査や植物調査、標本展示等を開催した。また自生種保全のための森づくり活動なども行った。
冬季も引き続き感染防止対策をしながらスノーシューツアーや雪あそびなどのイベントを実施し、2 月には「たきの森フェス」でたき火や冬の森遊びを体験できるプログラムを行った。

(3) 主なイベント

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ① きのとんの大冒険 | 4月29日～6月5日 |
| ② シラネアオイと春の野の花まつり | 5月8日～5月22日 |
| ③ チューリップ・すずらんフェスタ | 5月14日～6月5日 |
| ④ たきの森フェス～2022summer～ | 7月3日 |
| ⑤ 滝野の森“野外”昆虫博物館 | 7月31日～8月16日 |
| ⑥ LIGHT UP HOKKAIDO 2022 | 8月11日 |
| ⑦ たきのスノーフェスティバル | 2月4日、2月5日 |
| ⑧ 第3回北海道米そり選手権 | 2月11日 |
| ⑨ 道民・札幌市民歩くスキーの集い | 2月23日 |
| ⑩ たきの森フェス～2022winter～ | 2月26日 |
- ※ チューリップ掘り取り体験(6月11日、12日)は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実に資するため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル（スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器）等

(3) 収入金額

33,648,034 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、豊平川緑地

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

18,092,902 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

26,752,100 円

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

定時評議員会(令和4年6月27日開催)

議 題 報告事項

令和3年度(2021年度)事業報告の件

決議事項

令和3年度(2021年度)決算承認の件

みなし決議(令和5年3月30日付け)

理事選任の件

理 事 会

令和4年度第1回理事会(令和4年6月7日開催)

議 題 報告事項

理事長及び専務理事の職務執行状況について

決議事項

令和3年度(2021年度)事業報告承認の件

令和3年度(2021年度)決算承認の件

定時評議員会招集及び提出議題の件

令和4年度第2回理事会(令和5年3月23日開催)

議 題 報告事項

理事長及び専務理事の職務執行状況報告の件

決議事項

令和5年度(2023年度)事業計画及び収支予算書の承認の件

理事候補者選任の件

令和4年度事業報告

令和4年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。

よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。